

# 岐阜県大垣市方言の否定の表現

久野 眞

## I. はじめに

1. 調査対象地：大垣市は、岐阜県の南西部、濃尾平野の西部に位置し、人口は約15万人。江戸時代は戸田氏、十万石の城下町であった。JR東海道線、名神高速道路がとおっており、東海道新幹線も市の南部を通過する。岐阜県の政治・経済の中心的な地位にあり、郷土意識も強い。産業は繊維・科学・機械が中心で、農業は農地の95%を稲作が占める。名古屋へは電車で約30分で通勤する人も多いが、繊維産業などの関係から関西との交流も盛んである。
2. 調査年月日：1995年2月4日 午後2時～4時、 2月6日 午前8時～11時
3. 話者： 三輪春雄氏 大正9年3月16日生（74歳）
4. 調査者・調査場所： 久野眞、話者宅（大垣市船町）
5. 調査方法： 統一調査票による質問調査
6. その他：①アクセントは高く発音される拍の直前に「を、直後に「を示す。これはアクセントの型ではなく、パロールにおける音声的なすがた（イントネーションも含む）である。実際の高さは「の後にまた「が来ることや「の後に「が来ることもあるが、それは示さず、「の次はどこで下がるか、「の後はどこで上がるかだけを示した。また、アクセントの型が複数あると思われる場合もあるが、それは考慮せず、パロールにおける発音を記した。原則として「の右側は左側より高く、「の右側は左側より低い。  
②連母音の融合が盛んな方言であり、しばしば観察されるが、融合しないで発音されることもある。パロールの音声をそのまま記した。  
アイ・アエの融合は[Cæ:]で実現される。それをケァー、セァーのように示す。  
オイ・オエの融合は[Cø:]で実現される。それをコェー、ソェーのように示す。  
ウイの融合は、[Cy:]で実現される。それをキュー、スューのように示す。  
③母音の無声化はあまり目立たない方言である。しかし、関西方言同様に、たとえばアシタ（明日）のシが無声化するという程度にはある。ここでは示すことはしなかった。  
④ガ行音の伝統的な発音は語頭以外は鼻音である。この話者もそうである。しかし、若年層では破裂音になる傾向がある。ここではとくにガ行鼻音を示すことはしなかった。  
⑤話者の発言は（ ）で示す。その他、1994年8月に行った調査の結果や日常の生活で観察される傾向などを注で記す。

## II. 調査結果

1. 行かない ○「ア」メン フ「リソーヤ」デ 「キョ」ーワ ドッ「コ」モ イ「カ」ンワ

\*この地域の中・高年層は主格の「ガ」に相当する部分をしばしば「ン」で言うことがある。

2. 降らないよ ○「キョ」ーワ 「ア」メン フ「ラ」ンワ

3. 行きません ○「キョ」ーワ ドッ「コ」モ {①「イ」カヘン ②「イ」キャシ「マセ」ン}

\*イキマセンとイキャシマセンとの区別はやや曖昧。

4. 行きはしない ○「キョ」ーワ ドッ「コ」モ {①「イ」キャ「セン」 ②「イ」カヘン}

\* (①は女性の方が多く使う)

5. いらっしゃらない ○「センセ」ーワ 「キョ」ー ドッ「コ」モ イ「キナサラ」ン

6. 行かなかった ○「キョ」ーワ ドッ「コ」モ {①イカ「ナ」ンダ ②イ「カ」ヘ「ナ」ンダ ③イ「カンカ」ッタ ④イ「カ」ヘン「カ」ッタ}

\*否定形の非過去形が-ンと-ヘンの併用であるのに対して、過去形は-ナンダと-ヘナンダの併用になっている。また、-ンカッタ・-ヘンカッタの使用も見られる。若年層では-ナンダより-ンカッタのほうが優勢である。

7. 行きはしなかった ○該当する形式なし。6. に同じ。

\*もともとンに対してヘンが強い否定を表したと考えられるが、現在ではこの対立が失われ、ンのほうが強い表現と感じる人が増えている。

8. 行くまい ○「ア」メン フ「リソーヤ」デ 「キョ」ーワ ドッ「コ」モ {①「イ」カヘン ②イ「カ」ヘン}

\* (①の方が優しい感じ、②は強い感じ。)

9. 出まい ○「ア」メン フ「リソーヤ」デ 「キョ」ーワ ドッ「コ」モ {①「デ」ント オ「コ」 ②「デ」ーヘン ③「デ」ズニ オ「コ」}

\* (③は新しくて丁寧) 「まい」は方言形としては用いられない。

10. すまい ①「セ」ント オ「コ」/②セ「ー」ヘン ③セ「ズ」ニ オ「コ」

\* 9. に同じ。

11. 降らないだろう ○「キョ」ーワ 「テァーテ」ー 「ア」メワ フ「ラ」ンヤロ「ナ」ー

\* 「だろう」はヤロ (一)。

12. 降るにちがいない ○アシ「タ」ワ 「キ」ット 「ア」メン 「フ」ル {①ワ②ゾ}

\* 文末のワは男女とも使用する。女性語のワは無い。ゾは男性語

13. 来ない ○「キョ」ーワ ダー「レ」モ {①「コ」ーヘン ②「キ」ーヘン  
③「ミ」エ「ヘン」 ④ゴ「ザラ」ン}

\* (①のほうが②より優勢、③④は丁寧。ゴザル・ミエルは「来る」「居る」の尊敬語。) ミエルのほうがゴザルより優勢。ゴザルは中年層以上で使用される。

14. 来はしない ○「キョ」ーワ ダ「レ」モ {①「コ」ン ②「コ」ヤセン ③ミ  
「エ」ン}

\* (①と②の新古の区別はない。③は丁寧。)

15. 来なかった ○「キョ」ーワ 「ダーレモ」 {①コ「ナ」ンダ ②ミ「エナ」ン  
ダ ③ゴ「ザラナ」ンダ}

\* この他に、コーヘンダ、コーヘンカット、コンカットもある。6. 参照。

16. 見ない ○「キョ」ーワ ダー「レ」モ ミ「コーヘン」ヨ

17. 居ない ○ダー「レ」モ {①オ「ラ」ヘン ②オ「ラ」ン ③ゴ「ザラ」ン ④ミ「  
エ」ヘン ⑤ミ「エ」ン}

\* 6. 13. 参照。

18. 行かずに ○「キョ」ーワ ドッ「コ」モ {①イ「カ」ント ②イ「カ」ンデ  
③イ「カ」ズニ} ウ「チ」ニ 「オ」ル

19. 行かなくても ○ワ「ザ」ワザ イ「カ」ンデモ {①「エ」ーガナ ②「エ」ー  
ヤネアーカ}

20. 行かなければ ○ワザ「ワザ」 {①イカ「ナ」ンダホーガ ②イカ「ナ」ンダラ  
ヨ「カ」ッタ}

\* ①は「行かなかった方が」、②は「行かなかったら」に対応する。

21. 行かねば ○アシ「タ」ワ ドーシ「テ」モ イ「カ」ナ {①ア「カン」ワ②イ  
「カン」}

\* (②の方が新しい)

22. 行かねばならない ○アシ「タ」ワ ドーシ「テ」モ {①イ「カ」ナ(ア)「カン」  
ワ ②イ「カ」ンナ「ラン」 ③イ「カ」ナラン}

\* イカナアカンはいカナカンとも発音される。イカンナランは場合によってイカナランとも発音される。また、イカンナンという形式も観察される。「しなければならない」をシ「ンナン」という人も。

23. ～ズ(ヤ・ジャ・ダ) ○「キョ」ーワ ド「コ」モ イ「カ」ズジ「マイ」 {①ヤ②  
ヤッタ③ジャ}

\* 断定の「だ」はヤがすべての年齢層で優勢。老年層でまれに「そうだ」をソージャという人があるが、「美濃のジャことば」と言われ、かつては男女ともに「ジャ」を使ったが、大垣市方言にはほとんど残っていない。③は古い言い方。

24. 行きもせず来もしない ○コ「チラカラ {①イ「キャ「センシ ム「コーカラ  
コ「ーヘン ②イ「キ「モ 「センシ キ「モ 「セン「ワ}
25. 行くか行かないかわからない ○アシ「タ「モ イク「カ「 イ「カンカ「 ワ  
カ「ラヘン
26. 無い ○コン「ダケ「シカ 「ネァ「ーワ
27. 無い ○コト「シミ「テァーニ ア「ツ「イ ト「シ「ワ 「ネァ「ーナー
28. ありはしない ○コト「シンミ「テァーニ ア「ツ「イ ト「シ「ワ 「ア「ラヘ  
ン

\* (アラヘンはナイより強い否定。) 一般に否定はンとヘンの併用であるが、アルにはヘンが続く。ンが接続することが無いかどうかは未確認。「今年みたいに」はコトシンミテァーニとなる。

29. 無かった ○コト「シンミ「テァーニ ア「ツ「イ ト「シ「ワ ナ「カ「ッタ  
「ナ「ー
30. ありはしなかった ○コト「シンミ「テァーニ ア「ツ「イ ト「シ「ワ 「ア「  
ラヘナンダ「ナ「ー

\* 「ありはしなかった」を強調すると、「ア「ラヘ「ナ「ンダとなる。

31. 無いだろう ○コ「トシンミ「タイニ ア「ツ「エー ト「シ「ワ {①「ナ「イ  
ヤロ「ナ「ー ②「ア「ラヘンヤロ「ナ「ー}
32. 無ければ ○「コンナ「 ア「ツ「エー ナ「ツ「ナンカ 「ナ「キャ 「エ「ー  
ニ「ナ「ー

\* 人によりナケラナという形式も観察される。

33. 暑くない ○「キョ「ーワ 「アンマリ ア「ツ「ネァー
34. 暑くはない ○「キョ「ーワ {①「アンマリ ア「ツ「ネァ「ー ②「アンマ  
リ「 ア「ツ「イコ「ト「ワ 「ネァ「ー}

\* (②のほうが①よりやや強い否定。)

35. 暑くなかった ○「キョ「ーワ 「アンマリ ア「ツ「ナ「カ「ッタ「ナ「ー
36. 暑くはなかった ○「キョ「ーワ 「アンマリ ア「ツ「ナ「カ「ッタ「ナ「ー

\* 35. と36. の区別ははっきりしない。

37. 暑くないだろう ○アシ「タ「モ 「ア「ツ「ナ「イヤロ「ナ「ー
38. 涼しくない ○「キョ「ーワ 「アンマリ「 ス「ズ「シュー「ナ「イ「ナ「ー
39. にぎやかでない ○「アンマリ ニーヤ「カヤ 「ネァ「ー

\* (「にぎやか」は「ニーヤ「カと発音する。)

40. にぎやかではない ○「アンマリ ニーヤ「カヤ「ネァ「ー
41. にぎやかでなかった ○「アンマリ ニーヤ「カヤ ナ「カ「ッタ
42. にぎやかではなかった ○「アンマリ ニーヤ「カヤ ナ「カ「ッタ

43. にぎやかではなからう ○モー 「マ」エ 「ミ」タイニ 「ニーヤ」カヤ  
ネァ「ーヤロ」ナ「ー

44. 花ではない ○ア「ラ」 ハ「ナ」ヤ「ネァ」ー

\*アラはアリヤとも。

45. だめだ ○「ソ」ンナ コ「ッ」デワ イッ「ク」ラ ヤッテ「モ」 ア「カン

\*ダメは共通語的に用いられることもある。

46. だめな ○ア「イツ」ワ「 ア「カン ヤ「ッ」チャ

47. つまらない ○ソ「ン」ナ {①「ヘ」ン「ナ」コト ②オ「カ」シ「ナ」コト} イ「ヤ」ー  
スナ

\*イヤースナは「言う」の尊敬・禁止形。ツマランは「得にならない」という意味合  
いで使われるようだ。

48. いけない ○イッ「タ」ラ アカン「ヨ

49. 行カレン ○「行カレン」のような表現はしない。イカ「レン、イ「カ」レヘンは  
「行くことができない」

50. 行くな ○①イカン「ホ」ーガ 「エ」ーヨ/②イ「キャ」ースナ

\*禁止は「～シタラアカン」のような表現が多用され、「イクナ」は新しい・共通語  
的。命令表現に動詞の命令形を用いると非常に強い表現になる。「～シヤー」の形  
がよく使われる。②は古い、上品、丁寧な言い方。女性・子供・目上に対して用い  
る。

51. するな ○ソ「ン」ナ ウ「ル」イコト {①シ「タ」ラ ②シ「タ」} アカン「ヨ

\*早口に言うと②になる。ソ「ン」ナを「ン」(ンは無声化する)と言うことがある。

52. 行くもんではない ○「ソ」ンナト「コ」エ イカン「ホ」ーガ 「エ」ーヨ

53. たまらない ○ア「ツ」テ {①タマラン「ナ」ー ②カナ「ワ」ン「ナ」ー ③カ  
ナイマ「セ」ン「ナ」ー ④「ショ」ーガ「ネァ」ー ⑤「オ」ージョー ス「ル  
⑥「オ」ージョー 「コ」ク}

\*①は共通語的。⑤は「難儀をする」の意。⑥は下品。

54. しかたがない ○「ア」メガ ヤ「ム」ノー マッ「ト」ッテモ {①「ショ」ーガ  
ネァ「ー」ガネ ②「ショ」ン「ネァ」ー ③シカ「タン」ネァ「ー」}

\*②は①より下品。③は上品。女性の方がよく使う。

55. 楽ではない ○アンナ ト「オ」エトコマデ ア「ル」ク「ノ」ワ ラ「ク」ヤ  
ネァ「ー」ナ「ー

\*「遠い」はややトオエのようにも発音される。

56. 歩きたくない ○「アン」ナ「 ト「オ」エ「ート」コマデ ア「ル」キ「タ」ネァ「ー

57. 大丈夫だ ○「シン」ペァー セ「ン」デモ 「エ」ーワ

\*質問文の「心配しなくても」に引かれた回答と思われる。ダイジナイ、シャーナイ

などの言い方はしないという。

58. いや ○ ヤー フラ「ナ」ンダ

\*東濃にはインニャがあるらしい。

59. いや ○「ヤ」ー フラ「ナ」ンダウ

60. いいえ ○イーエ フラ「ナ」ンダデスウ

61. いや 61-1「ヤ」ー 「フ」ッタヨ

61-2 {①「ウ」ン ②「エ」ー} フラ「ナ」ンダ

\*②は①より丁寧。

62. どういたしまして ○「イー」エ {①「トンデモナ」イ ②「ドーイタシマ」シテ}

\*場合により別の表現も考えられる。

63. できない ○ワ「シャー」 {①「ソナコ」ト 「ヨー」セン ②「ソナコ」トワデ「キ」ン}

\*対応する可能の表現は、「ソナコ」トヤッタラ {①デ「キ」ルワ ②「ヨ」ースル ③「エ」ーワ} (そんなことだったらできるよ、いいよ)。

64. 読むことができない ○ク「ラ」イデ 「シンブン」ガ {①ヨ「メ」ヘン ②ヨ「メ」ン}

\*対応する可能の表現は、コ「コ」ワ「 アカ「ル」イデ ヨ「メ」ル「ナ」ー (ここは明るいので読めるなあ)

65. 読むことができない ○コ「レ」ウ マ「ダ」 「チーセア」ーデ 「シンブン」ワ {①ヨ「メ」ンヤロ ②ヨ「メ」ヘンヤ「ロ」 ③「ヨー」ヨマ「ン」 ④「ヨー」ヨ「マ」ヘン}

\*対応する可能の表現は、「チーセア」ーケド 「シンブン」 ヨ「ー」 「ヨ」ム「ヨ」 (小さいけど新聞を読めるよ)。能力可能と条件可能の区別はやや曖昧になっている。中年層でヨメヘンを「読まない」の意味で使う人がある。

66. 出られない ○「コン」ナ「ハ」デ「ナ」 フクキテ マ「チ」ー {①デ「ラ」レヘン ②「デ」レヘン ③デ「レ」ーヘン}

\*①は共通語的。可能表現はレルが動詞の活用の種類に関わらず接続するのが原則。その否定はレン、レヘン、レーセン、レーヘンになる。

67. 食べられない ○コノ キ「ノ」コワ アブ「ネア」ーデ タベ「ラ」レヘン

68. 食べることができない ○イソ「ガ」シテ ヒ「ル」メシモ「 {①タベ「ラ」レヘン ②タベ「レ」ーヘン ③タベ「レ」ン}

\*66. 参照。

69. 知るものか ○ンナ「コ」ト オ「レ」ガ「シル」モ「ン」カイ

70. 誰が行くものか ○ソナト「コ」エ ダ「レ」ガ「 {①イ「ッカ」イ ②イク

「モ」ンカイ}

71. なんて行くか ○「ソ」ンナト「コエ ナン「デ」 {①イ「カ」ンナランノヤ ②  
イ「カ」ンナンノヤ

\* (②は聞くが使わない形。)

72. なんて恥ずかしいものか ○ナン「デ ハズカシ」ーノヤ 「ナンニモ」 ハズカ  
シ」ーコト 「ネア」ーガナ

73. 行かないでおるものか ①イ「カン」デ オ「ル」モンカノ ②イ「カ」ント オ  
レ「ル」カイ

\* 反語表現をせずに、イ「ッタルガ」ヤのように言うことも。

74. やれるか ○ソ「レ」オ」 {①オ「マエ ヨ」ーヤル「カ」イ ②オ「マエ」 ヤ  
「レル」カ「イ」}

75. シテイラン ○「ソ」ンナニ」 イ「ヤ」ナラ {①シ「テイ」ランワ ②シ「テマ  
ー」ンデモ 「エ」ーワ}

\* 「してもらう」はシ「テマウ」、「してしまう」はシ「テ」マウ。②は「してもらわ  
んでも」の意。シ「テマワ」ンデモ、シ「テマワ」ンデ「モ」という発音も観察される。

76. 少しもはかどらない ○ア「ツ」テ シゴ「ト」ガ」 チョッ「ト」モ {①「デ」キ  
ヘン ②ハ「カ」ガ イ「カン」}

\* ①②の優劣・新古など不明。

77. ぜんぜんできていない ①シゴ「ト」ガ ナンニモデキトラ「ン」ノ ②シゴ「ト」ガ」  
イッ「コー」 デキトラ「ン」ノ ③シゴ「ト」ガ」 セン「ゼ」ン 「デキトラ「ン」

\* (③は共通語的。②はあまりできていないの意。)

78. いっこうに降らない ○ア「メ」ン {①チョッ「ト」モ フ「ラ」ン「ナ」ー ②  
イッ「コー」ニ」 フ「ラ」ン「ナ」ー}

\* (①の方が優勢。)

79. あまり降らない ○コ「ト」シモ ア「メ」ガ 「アンマリ」 フ「ラ」ン「ナ」ー

80. (予想外に) たくさん ○イ「モ」ガ {①ドエ「ラ」イ 「ギョー」サ「ン」  
「ト」レ「タ」 ②タ「ン」ト「レ」タ「ナ」ー}

\* (①の方が大げさ。ギョーサンモナイコト・ボッコモナイコト・ステンボモナイコ  
トなどの言い方はない。近い言い方としては、「こんなにたくさんとれたのは見た  
ことがない」という意味の、「コンナ ギョーサ「ン」 ト「レ」タノ ミ「タ」コ  
ト「ネア」ーがある。)

81. いいではないか ○ワ「ザ」ワザ イ「カ」ンデモ {①「エ」ーヤナイノ ②  
「エ」ーヤナイカ}

\* (エーノントチャウカのように言わない。)

82. いいではないか ○イ「カ」ンデモ 「エ」ーノント チガ「ウ

\* (新しい言い方。)

83. いいかもしれない ○ワ「ザ」ワザ イ「カ」ンデモ 「エ」ーカモ ①ワ「カ  
ラ」ン ②シ「レン
84. 行かないか ①イ「カ」ヘン↗ (上昇調) / ②「イ」カヘンカ↗ (上昇調) / ③イ  
カンカ↗ (上昇調) / ④イコ「メ」ァー (下降調) / ⑤イコ「メ」ァーカ (下降  
調)

\* ④⑤は上昇調に発音されることはないらしい。④の方が⑤より強い勧誘。

85. くないか ①モツ「テ」クレン (上昇調) <モからンまで次第に上昇する> / ②モ  
ツ「テ」クレンカ (平行調) <テからカまで同じ高さ> / ③モツ「テ」ク「レ」ヘン↗  
(上昇調) / ④モツ「テ」クレ「ル」↗ (上昇調) / ⑤モツ「テ」クレ「ル」カ↗ (上昇  
調)
86. くれませんか ①モツ「テ」モラエン (上昇調) <モからンまで次第に上昇する> /  
②モツ「テ」モラ「エ」ヘン↗ (上昇調) / ③モツ「テ」クレマセ「ン」カ (下降調にも  
上昇調にも)

\* ②の方が①より丁寧。③は共通語的。

87. 下さいますか ①コ「レ」 モツ「テ」 イタダケマセ「ン」カ / ②コレ オ「ネ  
ガイ」シテ「ヨ」ロシ「ー」カ

\* ①は共通語的。

88. 行かないと ○ハ「ヨ」 イ「カ」ナ

\* 「早く行ったら」は、「ハ」ヨ イツ「タ」ラ (ド「ー」ヤ)

### III. 総括 (まとめ)

岐阜県内を方言区画で分けるならば、東濃／西濃／飛騨になる。美濃と飛騨に分け、美濃を西濃と東濃に下位区分する見方もあろう。いずれにしても、都竹通年雄氏が岐阜・愛知を一つの方言区画としてまとめられたように、基本的には共通する点が多い。

しかし、細かく見るとアクセントは美濃・尾張に共通して飛騨と対立し、断定の「だ」に相当する表現は岐阜と愛知で対立する。

否定のンに関しては、岐阜と尾張では大きくは変わらないようである。ただし、変化の遅速によって優劣・新古などの状態は異なる。

西濃に限ってみると、ン→セン、セン→ヘンの変化が同時進行的に起きつつある状態と言える。

アクセントが東京式であること、連母音の融合があること、母音の無声化が少ないこと、ウ音便があることなど中国方言と共通する面も多い。

また、ジャがほぼやになったこと、センが強い打ち消しの機能をほぼ失ったこと、アスベクトのヨルとトルの区別がほぼ無くなったことなど、中国方言より変化が先に進んでい



ると考えられる点が多い。

東西方言境界地域にありながら、西濃方言は西日本方言的な性格の強い方言であると言える。変化の程度から言えば、近畿方言を追いかけながら中国方言をリードしている、ということであろうか。

否定表現も全体として西日本方言の性格が強く現れている。否定の過去が若年層でナンダからンカットに変化しつつあるのも、仮定表現にカッターが多用されるのも近畿方言などと軌を一にするものである。

ン→セン、セン→ヘンという変化と、ナンダ→ンカットという変化を組み合わせると否定の形式が多くなってしまう。

「行かなかった」には、イカナンダ、イカヘナンダ、イカンカット、イカヘンカットという4つの形式が対応する。そのうえ、「行ったか」という問いに対しては、イカンやイカヘンでも答えることができる。

また、アカンとイカンの併用、可能のレルが一段活用・カ変にも接続することなどが西濃方言の否定形式の大きな特色となっている。多数の形式がどのような体系を形成しているのか、今後の研究が必要である。

(くのみこと；岐阜教育大学)